

団長の独り言

9月18日(日)「稽古は大切です。」

昨日の土曜日、仕事のため稽古場到着が1時間ほど遅れてしまう。仕事を終えるとすぐに平野カーに乗り込むが、どうも腹が減ってしょうがない。しかし皆が一生懸命稽古している姿を思い浮かべると、コンビニに寄って軽食を買う時間も惜しい。空腹のまま稽古場へ。

稽古場となる公共施設に到着し、急いで車を駐車し、部屋までの廊下を小走りで向かうと、何の「音」が聞こえてこない。こと別の施設だと、廊下あたりから、みなの熱気に包まれた芝居をしている声や歌等も聞こえてくるのに……「トラブルが起こったか！」と不安になる。

ドキドキしながら私は一旦扉の前に立って、大きく深呼吸をして、細長い「覗き窓」から中の様子を伺えば、皆さんちゃんと稽古している様子。

ホッとしつつ、ゆっくりと少しずつ扉を開けて中に入れば、恵ちゃん演じる「愛実」と、ゆみさん演じる「桃子」が「喫茶店」で話し込んでいる場面の稽古の真っ最中だった。

そっか、そっか……この部屋は完全防音なので、部屋の外へは一切音が漏れない仕組みだった。

そりゃー部屋の外にいれば静かなはず。それにしてもだよ。廊下から稽古場に入った瞬間の稽古場の熱気たるや！すごいものを感じた。

わーわー騒がしいシーンじゃなくて、二人の役者が喫茶店で静かに会話をしているシーンなんだけど、芝居をしている二人と、二人を見守っている皆さんの「静かなる熱気」がすごくて、緊張感溢れる空気が、ピンピン伝わってきたのですよ。

そんな熱気ある「喫茶店」のシーンを暫く拝見し、区切りのいいところで稽古を中断してもらい、普段ならばここまでは皆とご挨拶をするのだが、全員がとても集中しているし、稽古開始から約1時間経ってこのシーンという事は、恐らく「通し」でここまでできたのも推測できる。せつかく「通し」でここまで来たのに、ここで芝居を止めるとリズムやテンポが崩れる可能性もある。

次のシーンに登場する二人の役者はすでにスタンバイしているし、次のシーンもその次もと、そのまま芝居を続け、結局1幕の最後まできっちり演じてもらい、ここでようやく一旦休憩を入れて、皆さんへのご挨拶と遅れて来たことへのお詫びをして、10分間の休憩後、予定では2幕の稽古を行うつもりだったけど、私がいらない中でも本気で挑んでいた、先ほどの1幕をぜひとも見せてもらいたくなったので、もう一度、幕開きから順を追って演じてもらう事にした。

最初の出だしの「久美先生」と、「桃子」のシーンは先週みっちりやったので、カモ抜けて、セリフがちゃんと耳に入ってくるようになっていたし、続くシーン2もまずまずだったのだが、シーン3とシーン6でのとあるやり取りの場面が、めちゃめちゃ気になった。

今のまま流しても問題ないレベルではあるけれど、せつかく再演するのだし、前作と違った芝居を要求したくなり、役者のキャラクターに合わせ、ちよいと味付けを施したダメを出す。

しかし、どうした事か？今一、私の要求が伝わらず、なかなか前に進まない。だからといって、「じゃ〜味付けしなくていいか……」という妥協もなんだか悔しい。あの手この手でダメを出し、なんとか各役者の個性を活かした芝居を作り上げようと、かなり細かく何度も何度も繰り返し返したが、うう……タイムアウト！中途半端だけどこの日の稽古は終了。

で！本日の稽古でも、当然ながら昨日の続きで、「気になった場面」の稽古にかなりの時間を割いた。

だだ……役者にとっては、ずっと同じダメを出し続けられるってのは、精神的になりきつし、また、どのシーンにも相手役として登場し、全ての場面でハイテンションで演じるまり恵さん(萱場まり恵)もかなりきつかったと思う。

それでも彼女は、ダメを出された役者が少しでもやりやすいようにと、同じシーンを何度も何度も繰り返し行ったにも関わらず、気を抜かず、明るく全力で立ち向かってくれた。こうしたナイスなチームワークこそが、「久美・美容室物語」を底上げする。

今回の「久美・美容室物語」も、とても多くのお客様が期待して下さっている。板橋区への回覧板のチラシや、広報誌「ふれあい」を御覧になった方から「ふあんハウスがまた板橋に来る」とばかりに、文化会館の窓口でチケットを購入して下さる方も何名何名もいらっしゃるし、劇団からのご案内の届いた方からは、「定期公演を続けられるのは立派です」という内容のお手紙を、わざわざ送って下さる方もいらっしゃった。

あと続々とネットからのお申込みも！勿論、出演者の知人・友人の方からの申込みもあるわけで、そうした多くのお客様のご期待に添うためにも、何がなんでも芝居を仕上げる責任が我々にはある。その事を今一度胆に銘じて、チーム全体が一丸となり、いい雰囲気の中、本番まで突き進みましょうねえ。